
可能性の色

たぬぽん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

可能性の色

【Nコード】

N3980S

【作者名】

たぬぽん

【あらすじ】

可能性の意味をもつ唯一の色

色シリーズ 空色

(前書き)

可能性の意味をもつ唯一の色

宇宙から見れば青く美しい地球も
あたしの目の前に広がる光景は
ちっとも青くなかった。

＞最大の青く

信号機の青も、看板の青も、キラキライルミネーションの青も、
どれもこれもそれではなくて、窮屈なこの世界を
さらに狭くするだけで、

この先もずっとこの窮屈と共に生きていくのは
何よりも苦しく、辛くてあたしはここにいます。

フェンスに寄りかかり、したを見下ろす。

ああ、なんて汚くて狭い不自由な世界なの？

この一歩、あと一歩踏み出せば、
全てから自由になれる。
だけど足は動かなくて。

何かまだ期待している。何を？

この狭い汚い世界は辛いだけなのに――
矛盾を抱えたまま目を閉じ、上を向く
さあ、一歩――

そのとき、瞼の上から光を感じて目を開いた。

目の前には青く広がった世界

白く柔らかい住人が緩やかに流れ、
明るく眩しい光が暖かくそれを見守っていて

気がつくときあたしの頬を沢山の何かが伝っていて、
あたしはしゃがみこんでいた。

下を向いて、狭い世界を生きていたあたしに
それは途轍もなく美しくて――

立ち上がり、フェンスを越えて制服を整え
あたしは一步踏み出した。
自由ではなく、汚い世界に。

何一つ変わらず狭い世界は、
相変わらず汚くて不自由だけれど
あたしの中には精一杯の青が広がっていた。

何も変わっていないのに、
何かが変わった気がして大きく息を吸う。

上をみると、青があたしのなかを流れて行き、
不自由が少し自由になった。

（後書き）

前回頂いたアドバイスを元に
ファイルを再確認。

この方が引き締まりますね。

一番身近で気づかないけど
可能性はいつでも隣にいる。
そんな感じの空色。

あたし表記は読みにくいかもしれませんが、
話し言葉で書いてみたかったのでその表記です。

アドバイス等よろしくお願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3980s/>

可能性の色

2011年10月8日22時16分発行